



明日は卒業式。

いよいよ明日は卒業式です。中学校生活の最後の1週間となった今週は、卒業遠足やクラスマッチやレクなど盛りだくさんな1週間でした。明日を機にお互いが別々の道を歩むこととなりますが、同じ空の下で時間をともにしています。心のつながりを忘れずに、日々、充実した生活を歩んでいきましょう。

明日の流れ

- ・ 9:00までに登校し教室に着席すること。式服の着こなしとバッヂと胸花をしっかりとつける。
- ・ 9:00から教室にて学活。
- ・ 9:15頃 移動開始 トイレなども済ませておく。
- ・ 9:25 入場 → 9:30 開式 → 10:30 閉式 → 退場 そのまま教室
- ・ 11:00頃 教室にて最後の学活
- ・ 11:20頃 校庭に移動 → 歓送の会 → 12:00頃解散

注意事項

<当日について>

- ・ 登校は8:30以降とする。早目に学校に来過ぎない。
- ・ 式場内はセーター、カーディガン、ベストは着用しない。
- ・ 異装や整髪料、染髪は禁止です。場合によっては式に参加できないこともあります。
- ・ スマホやデジカメは保護者に預けておくこと。校舎内は撮影禁止です。

<証書授与について>

- ・ 行く道は白テープ、帰り道は緑テープ。
- ・ 待機人数をチェックし、自分の進むタイミングを見図る。
- ・ 証書は左手でたたみ、手首を返して印字が見えるようにする。

<歓送の会について>

- ・ 歓送の花道を通り抜けたら、スマホやデジカメを保護者から受け取り撮影を認めます。
- ・ 在校生との撮影や接触は感染防止のため禁止とします。
- ・ 校舎内には戻らないこと。時間までに南門を出てそのまま下校すること。

保護者の皆様へ

- ・ 保護者の受付開始は9:00からです。体育館横の受付を通過して9:20までにご着席ください。
- ・ 会場内の保護者の参列は1名のみとなっています。ご了承ください。
- ・ 卒業アルバムについて、クラスマッチの集合写真と卒業式の証書授与写真が4月以降送付予定です。
- ・ 別紙の案内の通り、3月下旬から4月上旬にかけて返金予定です。それまでの口座の解約は控えてください。

はなむけの話 教授のツボ

ある大学の授業でのことです。「クイズの時間です。」といって教授は大きなツボを教壇（きょうだん）に置きました。そして教授はツボに一つ一つ岩をしきつめて言いました。「このツボは満杯でしょうか？」教室の学生たちは「はい」と答えます。すると教授は「本当に？」と言いながら教壇の下からバケツいっぱいの砂利を取り出しました。そして砂利をツボの中に流し込み、ツボを振りながら岩と岩との間を砂利で埋めます。そして、学生たちに「このツボは満杯でしょうか？」と学生たちにもう一度同じ質問をしたのです。学生たちは「多分違うだろう。」と答えると、教授は“そうだ”と笑いながら砂の入ったバケツを取り出したのです。それを岩と砂利の隙間（すきま）に流し込んだあと、三度目の質問「このツボはこれで満杯でしょうか？」今度は学生たちは声をそろえて「違う。」と答えます。すると教授は、水差しを取り出してツボのふちまでなみなみと水を注いだのです。教授は学生たちに最後の質問をしました。「私が何を言いたいのかわかりますか？」

教授の質問について考えるなか、一人の学生が手を挙げて答えました。「どんなにスケジュールが厳しいときでも、最大限の努力をすれば、いつでも予定を詰め込むことができます。」答えた学生に対して教授は一言「それは違う。」と答えました。そしてこう続いたのです。

重要なポイントはそこではありません。この例が私たちに示してくれることは、大きな岩を先に入れないかぎり、それが入るすき間は、そのあと二度とないということなんです。

君たちの人生にとって「大きな岩」とはなんでしょうか。それは、仕事であったり、志であったり、愛する人であったり、家庭であったり、自分の夢であったり…。ここで言う「大きな岩」とは、君たちにとって一番大切なものです。それを最初にツボのなかに入れなさい。さもないと、君たちはそれを永遠に失うことになるでしょう。

もし君たちが小さな砂利や砂などの自分にとって重要性の低いものから自分のツボを満たしていけば、君たちの人生は重要でない“何か”に満たされるものになるだろう。そして大きな岩、つまり自分にとって一番大事なものに必要な時間を失い、その結果それ自体失うでしょう。

教授の考えが伝わったのでしょうか。この話に出てくる「ツボ」とはその人の気持ちや心の中身のことであり、私は思います。忙しいあまり、目先のものばかりにとらわれすぎていると、ふとしたときに何か自分自身を見失った感じがしてしまうことって誰にでも経験があったはずで

そんなときに、芯から自分を見つめ直せるような、自分自身にとって大切なものの存在は、もう一度希望をもって前向きに取り組める原動力になるような感じがします。だからこそ、心の中に真っ先につめる必要があります。大切なものは人それぞれであって、形や見出す意味も様々です。それをじっくり考えて日々の生活の中で、それを見つれたり、さらに磨いていったりしてほしいと思います。あなたが心の中に一番最初につめるべき宝物とは何でしょうか。みなさんの活躍を期待しています。

<保護者の皆様へ> 学年主任 伊藤 友文

お子様のご卒業おめでとうございます。

急なコロナ禍の学校生活でお子様だけでなく、保護者の皆様にも我慢を強いる機会がたくさんありました。しかし、そのような状況下でも保護者の皆様の温かなご支援とご協力がたくさんあり、我々も熱意を込めて教育活動を進めることができたと感じています。

陰ながらお子様の健やかな成長を願っております。本当にありがとうございました。